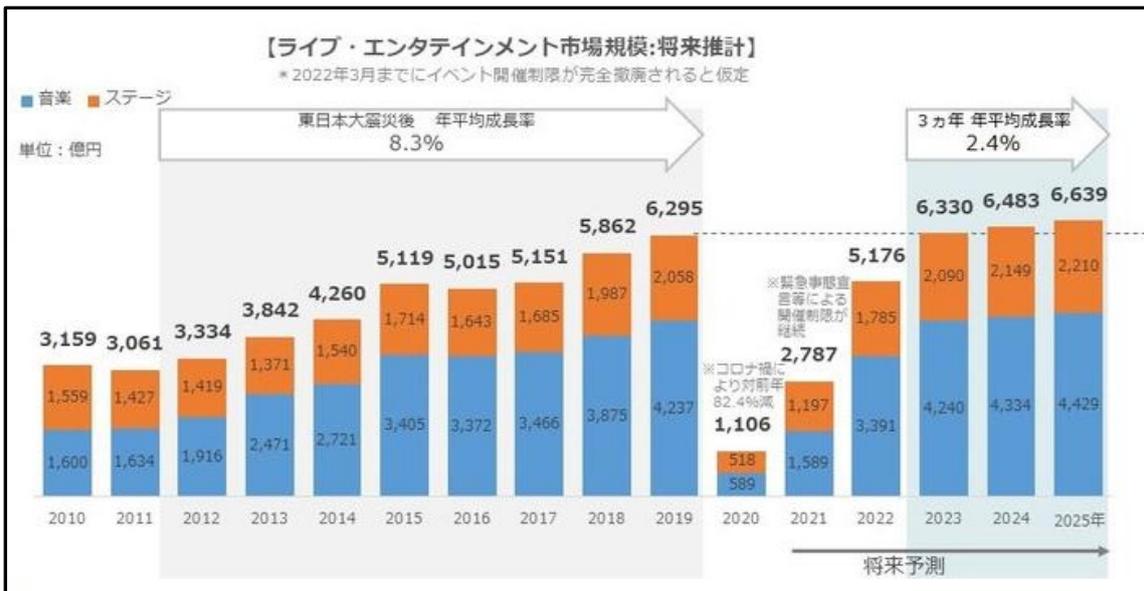


「舞台技術サービス業」（仮称）の日本標準産業分類における取扱いについて

令和4年9月
経済産業省統計企画室

1. これまでの経緯

2000年代以降、市場規模の増加傾向が続いてきたライブエンタテインメント業界については、新型コロナウイルス感染症の流行前における市場規模が約6,300億円まで拡大した。新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に縮小した市場規模も、今後は感染の収束により持ち直すことが見込まれているが、同業界を支えるいわゆる「裏方」とも呼ばれる、大道具、照明、音響等の舞台装置の管理・設営・操作を行う事業の日本標準産業分類における位置付けについて、令和4年3月24日開催の第7回産業分類検討チームにおいて議論いただいたところである。



(注1) ライブエンタテインメント市場規模＝音楽コンサートとステージでのパフォーマンスイベントのチケット推計販売額合計と定義（ただし、オンライン配信ライブは含まない）。

(注2) 「音楽コンサート」の内訳は、ポップス、クラシック、演歌・歌謡曲、ジャズ、民族音楽など、「ステージパフォーマンス」の内訳は、ミュージカル、演劇、歌舞伎、能・狂言、寄席・演芸、バレエ、ダンスなど。

[出所] ぴあ総研 HP (https://corporate.pia.jp/news/detail_live_enta20210928.html) 2021年09月27日公表

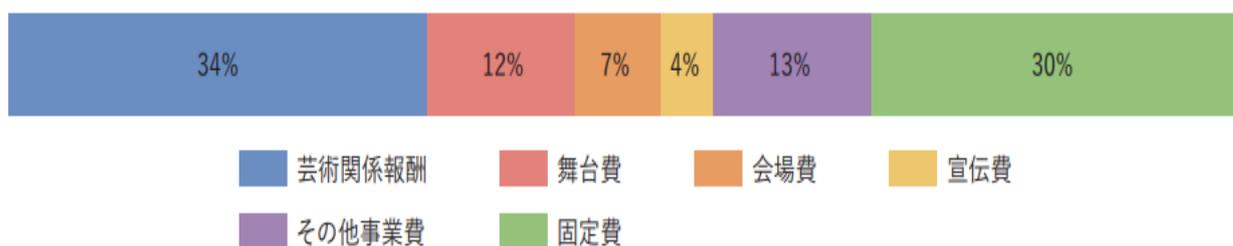
その際、検討チーム構成員各位からいただいたご意見（細分類として設定すべき上位区分の妥当性や検証データの有効性等）を踏まえ、かつ、演劇、演芸、舞踊、舞踏、音楽などの興行

事業と関連性や国際分類との整合性の観点から、改めて「小分類 802 興行場（別掲を除く）、興行団」の細分類として、その名称を含めて再検討することとした。

2. ライブエンタテインメント業界の費用構造

舞台芸術、音楽、映画などの文化芸術に関わる芸術関係団体で構成される「文化芸術推進フォーラム」が、2021年4月に構成団体及びその傘下団体を対象として実施したアンケート結果によれば、実演芸術団体の年間経費のうち、大道具、照明、音響、衣裳、小道具とそのスタッフ費用で構成される「舞台費」は、全体費用の12%を占める状況となっている。

実演芸術団体の年間経費平均構成



(注) 芸術関係報酬：脚本、作曲、演出、振付などの芸術スタッフ費、出演料、著作権料など

舞台費：大道具、照明、音響、衣裳、小道具とそのスタッフ費用

[出所] 「新型コロナウイルス感染症拡大による文化芸術界への甚大な打撃、そして再生にむけて」調査報告書

(文化芸術推進フォーラム、2021年7月)

([HTTP://AC-FORUM.JP/WP-CONTENT/UPLOADS/2021/07/FORUM_REPORT2021.PDF](http://ac-forum.jp/wp-content/uploads/2021/07/forum_report2021.pdf))

3. 公的統計による現状について

(1) 就業者数（平成 27 年国勢調査）

平成 27 年国勢調査の職業分類において、「舞台制作業」に関連する区分としては、「舞踏家、俳優、演出家、演芸家」があり、就業者数は 53,960 人となっている。その内容例示として、「舞台装置家」及び「照明家」の記載がある。

23a 舞踊家、俳優、演出家、演芸家

舞・踊・振によって、感情と意志を表現する演技者、映画・演劇・テレビジョンなどにおける演技者、脚本・シナリオに基づいて、映画・演劇・テレビなどを組成する俳優の演技指導を行うもの及びセット・照明・音楽・擬音などを総合的に監督するもの並びに講談・落語・漫才・浪曲・声色・茶番狂言・奇術・曲芸などの演技者をいう。

ただし、個人教授所などにおいて、舞、踊、振などの個人指導に従事するものは「中分類 24－その他の専門的職業従事者 [24p]」に分類される。

○ 俳優、役者、日本舞踊家、ステージダンサー、講談師、落語家、浪曲家、演出家、舞台装置家、プロデューサー（映画・放送業）、照明家、アシスタント・ディレクター、漫才師、コメディアン、能師、狂言師、バレエダンサー、タップダンサー、アクロバットダンサー、映画俳優、テレビタレント、歌舞き（伎）俳優、おやま（女形）、放送劇団員（声優を含む）、スタントマン、映画監督、歌舞き（伎）監事、芸能関係司会者、人形芝居師、詩吟家

× フロアダンサー [40c]、日本舞踊個人教師 [24p]、社交ダンサー [40c]、社交ダンス講師 [24p]

[出所]「平成 27 年国勢調査に用いる職業分類」（総務省統計局）

これに関連して、厚生労働省職業情報提供サイト（日本版 O-NET）では、「舞台美術スタッフ」及び「舞台照明スタッフ」が職業事例として掲載されている。

舞台美術スタッフ

職業別名 : 美術監督

職業分類 : プロデューサー、演出家

属する産業 : 情報通信業、生活関連サービス業、娯楽業 [📄](#) (クリックすると別サイトのしよぼらぼへ移ります)

[▶ どんな仕事？](#) [▶ 就業するには？](#) [▶ 労働条件の特徴](#) [▶ しごと能力プロフィール](#) [▶ 類似する職業](#) [▶ 関連リンク](#)

どんな仕事？

演劇、オペラ、バレエ、ショーなど様々な舞台芸術が上演されるステージを構成する舞台装置や衣装をデザインする。舞台装置のデザインは、平面図、道具帳、書抜き、舞台の縮小模型などで表現され、これらの図面やデザイン画、あるいは模型などを作成することが主な仕事である。

衣装のデザインは、出演者一人一人の衣装（全身）のデザイン画で表現され、それに布地見本などが添えられる。衣服だけにとどまらず、アクセサリーや履き物、かぶり物などのデザイン画が要求されることもある。

ただし、装置も衣装もあくまで舞台芸術の演出効果の一部としてデザインされるため、脚本を理解し、演出家や他のスタッフとの綿密な打ち合わせを繰り返し、デザインを進める必要がある。そのため、脚本や場面構成、演出プランの変更にもとまって、何度となくデザインを描き直すことも珍しくない。

舞台美術の仕事は、装置や衣装の製作発注打ち合わせと、製作現場での製品のチェック、劇場における仕込み、舞台稽古を経て、初日に至るまで続く。デザインの細部まで演出家の指示があれば修正し、完成にこぎつけることになる。

舞台装置や衣装は、舞台芸術には欠かすことのできない要素であり、デザインの良し悪しは、その舞台作品の芸術的評価を左右するため、舞台芸術において、重要な責任を担っている。

◇ よく使う道具、機材、情報技術等

工具（かなづち、のこぎり等の手動工具、ドリル等の電動工具）、作業中の護身用品（ヘルメット、ゴーグル、グローブ、安全靴等）

[掲載している職業情報について（ご意見募集など）](#)

求人情報を検索したい方はこちらから。
(ハローワークインターネットサービスへ移ります)

[🔍 求人検索](#)

タスク（職業に含まれるこまかな仕事）

実施率	タスク内容
65.0%	上演する劇場の設備を確認する。
50.0%	舞台稽古に立ち会い、演技と舞台美術のバランスをチェックする。
45.0%	デザインのため、脚本を読み、演出家や他のスタッフとの打ち合わせをする。
35.0%	スタッフと打ち合わせをして装置図を作成する。
35.0%	舞台装置の製作過程をチェックする。
35.0%	劇場での仕込みに立ち会い、装置や装飾をチェックし、細部の修正を指示する。
30.0%	寸法などを記載した舞台装置製作図面をつくる。
30.0%	装置や衣装の製作者との発注打合せをする。
25.0%	演出プランの変更を受けてデザインの練り直しをする。
20.0%	場面ごとにセットのデザインを視覚化し、平面図とデザイン画を作成する。
15.0%	セットの縮小模型を製作する。
10.0%	出演者の衣裳をデザイン画で表現する。
0.0%	衣裳の俳優へのフィッティングに立ち会い、細部の修正を指示する。

労働条件の特徴

勤務先は、装置や衣装を制作する会社、劇団等である。舞台美術家のアシスタントとして働く場合もある。豊富な経験、知識や技術が必要な仕事のため、就業者の年齢層は幅広い。

雇用労働者の場合は、賃金、労働時間等労働条件は勤務先の規定による。フリーランスの舞台美術家の場合は、公演ごとの契約となる場合がほとんどである。報酬の額は公演の規模、装置・衣装の予算規模、劇場の規模などによって様々である。舞台美術家自身のキャリアや実力によっても報酬の額は変わり、収入額にかなり差がある。

舞台芸術という環境であるため、労働時間は不規則になりがちで、土日祝日に関係なく、また夜間まで働くことも珍しくない。打ち合わせ、劇場での仕込みや舞台稽古に立ち会うこともあり、1本の仕事のためにかなりの時間が必要となる。

近年、全国各地に次々とパブリックシアター（公共劇場・公共ホール）が建設され、それぞれ独自の企画による公演が行われており、新たな仕事の場の可能性が広がっている。

[掲載している職業情報について（ご意見募集など）](#)

統計データ

舞台美術スタッフが属する主な職業分類（プロデューサー、演出家）の統計情報です。

※関連団体等が別途就業者数等を公表している場合は「労働条件の特徴」本文中に記載されていることがあります。

都道府県を選択	▼	データ表示対象地域を選択（就業者統計データおよび求人統計データの都道府県別の数値が表示されます。）
---------	---	---

就業者統計データ

就業者数	(出典：平成27年国勢調査)	労働時間	(出典：令和2年賃金構造基本統計調査)
全国	53,960 人	全国	168 時間
都道府県を選択すると都道府県別の数値が表示されます。		都道府県を選択すると都道府県別の数値が表示されます。	
賃金（年収）	(出典：令和2年賃金構造基本統計調査)	年齢	(出典：令和2年賃金構造基本統計調査)
全国	599.3 万円	全国	41.1 歳
都道府県を選択すると都道府県別の数値が表示されます。		都道府県を選択すると都道府県別の数値が表示されます。	

ハローワーク求人統計データ

求人賃金（月額）	(令和2年度)②	有効求人倍率	(令和2年度)②
全国	24.8 万円	全国	0.28
都道府県を選択すると都道府県別の数値が表示されます。		都道府県を選択すると都道府県別の数値が表示されます。	

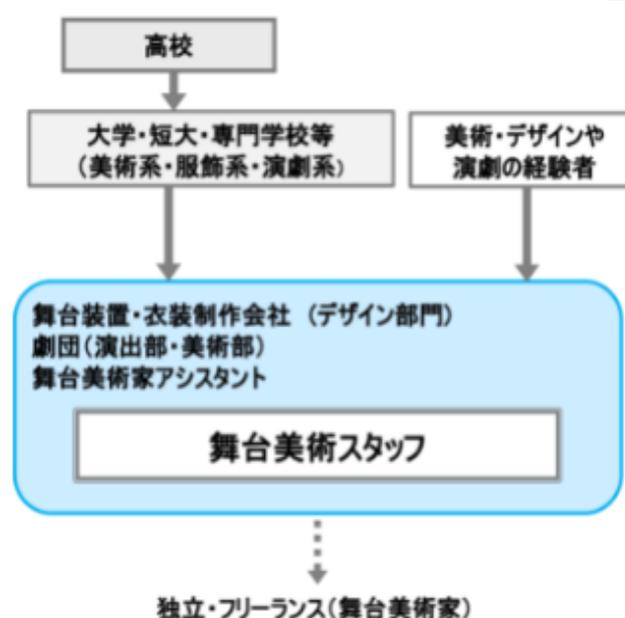
就業するには？

入職にあたって、特に学歴や資格は必要とされない。美術的なセンスや技術と、演劇的なセンスや知識が必要であり、現場で身につけることもできるが、実際には、美術系の大学や専門学校を出た人、演劇系の大学や専門学校を出た人が多い。

この職業を目指すには、いくつかのコースが考えられる。第1は装置や衣装は制作会社に就職し、デザイン部門に配属されるか、あるいは現場で働きながら勉強する道である。第2は劇団などの演出部や美術部に入って、演劇全般を学びつつ舞台美術スタッフを目指す道などである。第3は既に舞台美術家として活動している人に弟子入りし、アシスタントとして働きながら勉強する道である。

フリーランスとして独立するためには、修業時代に数多くの舞台の現場を経験するとともに、演出家、脚本家、俳優をはじめとした舞台芸術にかかわる人々との人脈を広げる必要がある。いずれの道を選ぶにしろ、舞台美術家として立ち立つるまでには、相当の年月がかかる。

[掲載している職業情報について（ご意見募集など）](#)



舞台照明スタッフ

職業別名：照明監督

職業分類：プロデューサー、演出家

属する産業：情報通信業、生活関連サービス業、娯楽業 [📄](#)（クリックすると別サイトのしよくばらへ移ります）

[👉 どんな仕事？](#) [👉 就業するには？](#) [👉 労働条件の特徴](#) [👉 しごと能力プロフィール](#) [👉 類似する職業](#) [👉 関連リンク](#)

どんな仕事？

劇場などのホールで上演される演劇やコンサート、イベント会場のステージなどで照明を担当する。単にステージ上やホール内を明るく照らすだけでなく、様々な工夫をこらした光を用いて、昼や夜などの時間の経過のほか、雨や雷などの天候、四季などを表現し、上演される作品の制作意図に合った舞台効果を演出する。上演や番組の収録までに、演出家を中心とした他のスタッフと制作意図について綿密に意見を交わし、照明のイメージを作り上げる。劇場やホールの特性に合わせて様々な角度からの照明を考慮し、各シーンの照明を決め、上演中に使用する光の全体像を書き込んだ「照明仕込み図」を作成する。また、舞台の進行に沿った照明の「キューシート」（タイムテーブル）を作成する。これらを元に照明装置の配置と配線作業などを行う。上演・収録が始まると、進行にしたがって、照明装置を操作するオペレーターに指示を出す。大きな会場では、チーフのオペレーターが調光室の操作卓で主な照明の操作を行い、他のオペレーターがスポットライトなどを操作する場合もある。また、最近は音楽や演出に合わせた複雑な照明の動きをあらかじめコンピュータに入力し、コンピュータ制御で照明を行う場合も増えている。

◇ よく使う道具、機材、情報技術等

照明装置、操作卓、スポットライト、バトン、脚立、パソコン、工具（かなづち、のこぎり等の手動工具、ドリル等の電動工具）、作業中の護身用品（ヘルメット、ゴーグル、グローブ、安全靴等）

[掲載している職業情報について（ご意見募集など）](#)

タスク（職業に含まれるこまかな仕事）

実施率	タスク内容
83.3%	スポットライトやフィルターの重ね合わせなどの光の加工をする。
79.2%	意図した効果を出すために、光量や色彩を調整する。
79.2%	作成されたデザインに基づき、照明機器の調達、機材の配置、電源の配線をする。
79.2%	舞台作品の演出家の意図をくみとり、照明デザインを構成する。
75.0%	調光操作卓で照明機器を操作する。
75.0%	リハーサルを通して照明デザインとの整合性を確認し、修正する。
70.8%	被写対象にライトを照射する。
62.5%	照明機材の点検・整備・修理をする。
58.3%	照明を操作するためにコンピュータヘデータを入力する。

労働条件の特徴

舞台演出や照明を行う会社の技術社員として勤務している場合が多い。少数であるが、劇場や劇団の専属の照明スタッフとして、またプランナーとしてフリーランスの立場で働いているケースもある。働く場所は、ホールやイベント会場のある都市部が多い。各地に多くの劇場が建設されたことにより地方での仕事も増えている。

雇用労働者の場合は、賃金、労働時間等労働条件は勤務先の規定による。上演スケジュールのため、作業は夜間に及ぶことも珍しくない。

ライトなどの照明機材は1つの重さが5~10kgあるものもあり、これを何十個も運び、**バトン**から吊る作業や、高い脚立上での調整作業など、安全に注意を要する作業もある。

演劇やライブ等は全国レベルで増加しており、舞台照明の仕事は増加傾向である。

[掲載している職業情報について（ご意見募集など）](#)

統計データ

舞台照明スタッフが属する主な職業分類（プロデューサー、演出家）の統計情報です。

※関連団体等が別途就業者数等を公表している場合は「労働条件の特徴」本文中に記載されていることがあります。

都道府県を選択	▼	データ表示対象地域を選択（就業者統計データおよび求人統計データの都道府県別の数値が表示されます。）
---------	---	---

就業者統計データ

就業者数

(出典：平成27年国勢調査)

労働時間

(出典：令和2年賃金構造基本統計調査)

全国

53,960 人

全国

168 時間

都道府県を選択すると都道府県別の数値が表示されます。

都道府県を選択すると都道府県別の数値が表示されます。

賃金（年収）

(出典：令和2年賃金構造基本統計調査)

年齢

(出典：令和2年賃金構造基本統計調査)

全国

599.3 万円

全国

41.1 歳

都道府県を選択すると都道府県別の数値が表示されます。

都道府県を選択すると都道府県別の数値が表示されます。

ハローワーク求人統計データ

求人賃金（月額）

(令和2年度)②

有効求人倍率

(令和2年度)②

全国

24.8 万円

全国

0.28

都道府県を選択すると都道府県別の数値が表示されます。

都道府県を選択すると都道府県別の数値が表示されます。

※「統計データ」は、必ずしもその職業のみの統計データを表しているものではありません。

就業するには？

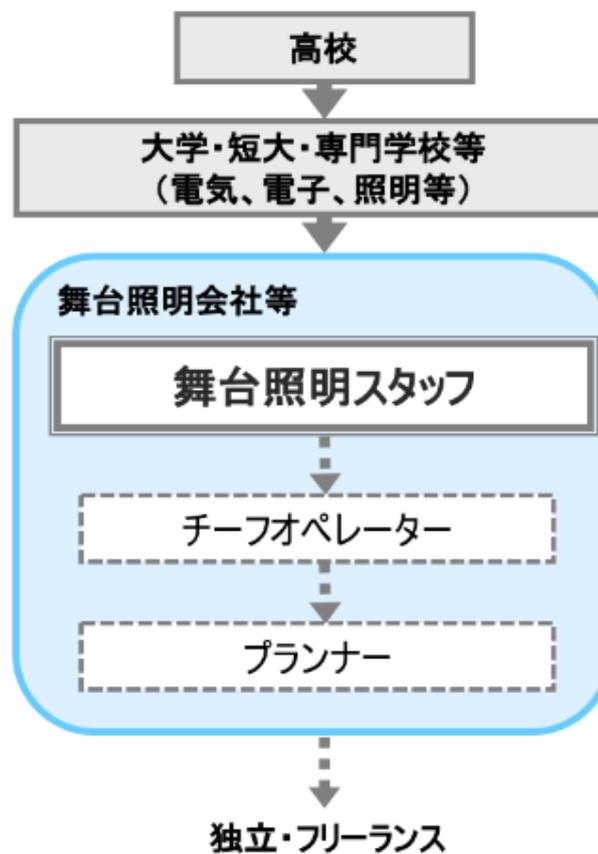
入職にあたって、特に学歴や資格は必要とされないが、電気を扱う上で専門的な知識を要求されるため、大学や専門学校で電気、電子、照明などを学んでいる場合が多い。また舞台芸術の知識や経験がある人もいる。

入社後、「ステージサイド」の照明オペレーターとして、人物や舞台装置に光をあてる操作を担当したり、登場人物にスポットライトをあてる「フォロースポット」を担当するなどして、照明操作の技術を高めていく。経験を積み、チーフオペレーターとして、調光室で他のオペレーターへの指示を出す業務も行う。チーフオペレーターから、[照明仕込み図](#)や[キューシート](#)の作成を担当するプランナーになっていく。また、照明デザイナーになる人もいる。

関連資格として、日本照明家協会が「舞台・テレビジョン照明技術者技能認定制度」を設けている。

照明の仕事は演出家や監督をはじめとする多くのスタッフとの共同作業であり、脚本や楽譜を読む能力などが求められる場合もある。また、単に照明設備だけでなく舞台の構造、音響設備を含めた舞台装置全般についての知識など、劇場全体に関する幅広い知識や芸術的な感性が必要な場合もある。

[掲載している職業情報について（ご意見募集など）](#)



[出所] 厚生労働省職業情報提供サイト（日本版 O-NET）(<https://shigoto.mhlw.go.jp/User>)

(2) 平成 28 年経済センサス - 活動調査の調査表情報を利用した集計結果

平成 28 年経済センサス - 活動調査の調査表情報を二次的利用により個別集計を行った結果に基づき、舞台制作に関係する業務を行う事業所の状況について小分類（3 桁分類）レベルによる抽出集計を行った。具体的には「主な事業の内容」又は「生産品、取扱商品又は営業種目」に「舞台」又は「ステージ」を含む事業所の抽出集計を行った。

表 1 平成 28 年経済センサス - 活動調査における「舞台」又は「ステージ」に関係する業務を行う事業所（産業大分類）

産業大分類	売上(収入)金額 (百万円)	事業所数	従業者数(人)
N 生活関連サービス業, 娯楽業	137,620 (54.8%)	578 (38.2%)	6,829 (46.7%)
E 製造業	41,785 (16.6%)	257 (17.0%)	2,487 (17.0%)
D 建設業	22,488 (8.9%)	122 (8.1%)	1,162 (7.9%)
R サービス業(他に分類されないもの)	21,975 (8.7%)	199 (13.2%)	1,959 (13.4%)
I 卸売業, 小売業	9,962 (4.0%)	89 (5.9%)	555 (3.8%)
K 不動産業, 物品賃貸業	7,649 (3.0%)	69 (4.6%)	636 (4.3%)
L 学術研究, 専門・技術サービス業	3,472 (1.4%)	68 (4.5%)	305 (2.1%)
G 情報通信業	2,871 (1.1%)	42 (2.8%)	208 (1.4%)
H 運輸業, 郵便業	2,034 (0.8%)	6 (0.4%)	50 (0.3%)
O 教育, 学習支援業	748 (0.3%)	52 (3.4%)	197 (1.3%)
M 宿泊業, 飲食サービス業	682 (0.3%)	28 (1.9%)	231 (1.6%)
総計	251,287 (100.0%)	1,510 (100.0%)	14,619 (100.0%)

(出所) 経済産業省大臣官房調査統計グループ統計企画室が「平成 28 年経済センサス - 活動調査」の調査票情報を二次的利用による個別集計を行うことで作成した結果に基づき、「主な事業の内容」又は「生産品、取扱商品又は営業種目」に「舞台」又は「ステージ」を含む事業所の抽出集計したもの。

上記の集計結果については、抽出条件に適合する事業所を機械的に選択したものであることから、抽出された事業所が「舞台技術サービス業」に該当するかの判断は、調査項目の「主な事業の内容」又は「生産品、取扱商品又は営業種目」の記載内容の精査に加えて、各事業所が所属する企業の公開情報なども勘案して複合的に判断する必要があり、当該抽出結果のみでは量的基準を満たすことを確認することはできなかった。

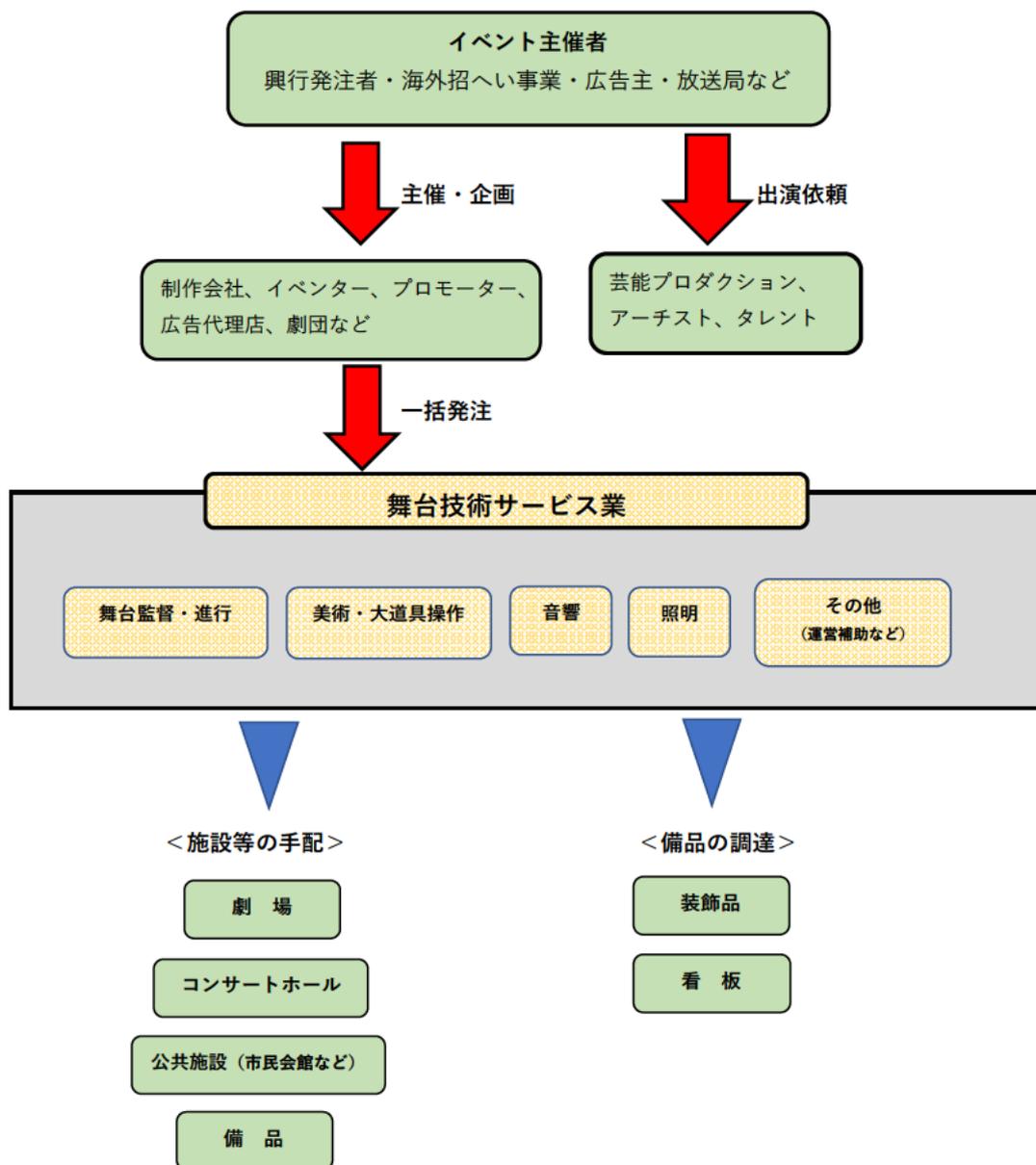
なお、「主な事業の内容」又は「生産品、取扱商品又は営業種目」の具体的事例（一部抜粋）と「舞台技術サービス業」との適合関係を試行的に整理したものについては、次の表 2 のとおりとなっている。

表2 平成28年経済センサス-活動調査の「事業所の主な事業内容」において「舞台制作技術サービス業」に関連する記載内容（具体的事例の一部抜粋）

	「舞台技術サービス」に該当すると判断可能な事例	「舞台技術サービス」に該当すると判断が難しい事例
D 建設業		舞台工事、幕工事 舞台設備工事（舞台幕、舞台吊物、暗幕、カーテン） 舞台機構設備の製作・施工保守点検（吊物昇降設備） コンサート、舞台等の特殊美術の製作、施工、設置 舞台照明設備設計及び施工
E 製造業		舞台装置製作（大道具一式製作） 舞台衣裳加工業 舞台の大道具製作（舞台美術品） 舞台照明製造組立 演劇舞台用の造花製造
I 卸売業・小売業		舞台照明器具の販売 楽器、音響機器（小売）販売 舞台美術装飾の販売 舞台衣裳、小道具の販売 舞台機構、昇降機、遊戯機械の販売、据付
K 物品賃貸業		舞台の音響や照明器具の設置レンタル 舞台、スタジオ照明、音響等取付リース業 舞台衣裳のレンタル
L 専門・技術サービス業	舞台進行（舞台監督） 舞台・イベントの制作（舞台監督） 舞台設備管理（舞台・照明・音響等装置の操作技術者） 業務請負（舞台設備等操作管理業務）	舞台照明の設計、設営施工 デザイン事業（舞台美術デザイン） 舞台演出
N 娯楽業	舞台照明サービス業 舞台音響操作 舞台音響効果制作 舞台照明演出（照明オペレーター） 舞台・音響・照明業務 劇場舞台機構操作および大道具業務 舞台照明業務 演劇、舞台大道具操作、進行 舞台監督業 舞台美術操作	会館舞台管理 舞台（演劇）制作 芸能事務所・舞台製作
R サービス業 （他に分類されないもの）	舞台設備の操作管理 舞台美術（大道具操作） 舞台請負（舞台監督）	舞台管理業務（委託管理業務） 舞台照明機器のメンテナンス、修繕（舞台照明機器メンテナンス）

（出所）経済産業省大臣官房調査統計グループ統計企画室が「平成28年経済センサス-活動調査」の調査票情報を二次的利用による個別集計を行うことで作成した結果に基づき、「主な事業の内容」又は「生産品、取扱商品又は営業種目」に「舞台」又は「ステージ」を含む事業所の抽出集計したもののうちの一部事例を抜粋したもの。なお、（ ）内は「生産品、取扱商品又は営業種目」に記載された内容。

<参考> 「舞台制作技術サービス業」に係る事業構造の概要図



【出所】「ライブエンタテインメント団体連合会（スタッフ連合）」団体概要を参考に作成
(<https://www.zenshokyo.or.jp/cms/wpcontent/uploads/2021/06/6405579d0e121cba0cf5faa3b443f366.pdf>)

3. 日本標準産業分類改定における対応について

今回の改定における「舞台技術サービス業」の検証結果については量的基準を満たすことが確認できなかったが、成長産業としてのライブエンタテインメント業界を支える業種であることや国際分類との比較可能性、一定の市場規模が推計されること等を考慮し、下記の対応といたく改めてご検討をお願いしたい。

- (1) 「小分類 802 興行場（別掲を除く）、興行団」との業務関連性及び国際分類における取り扱いを踏まえて、細分類「8096 娯楽に付帯するサービス業」の内容例示に「舞台技術サービス業」の追加をお願いしたい。

8096 娯楽に付帯するサービス業

プレイガイド、場外馬券・車券の取次販売など他に分類されない娯楽に付帯するサービスを提供する事業所をいう。

○プレイガイド；場外馬券売場；場外車券売場；演劇俳優あっせん業；舞台技術サービス業；競輪・競馬等予想業；ゴルフ会員権買取販売業（売買あっせんを含む）

×映画出演者あっせん業 [4169]；映画・演劇用諸道具賃貸業 [7091]；芸能プロダクション [8023]

- (2) 日本標準産業分類の改定後に行われる「サービス分野の生産物分類」において、細分類「8096 娯楽に付帯するサービス業」に対応する「舞台技術サービス」の分類設定の検討を併せてお願いしたい。
- (3) 分類上における名称として、本ペーパーでは「舞台技術サービス業」と“仮称”として記載してきたが、名称についてもご検討をお願いしたい。なお、業界関係者からの意見を踏まえた名称案は、次のとおりである。

【名称案とその背景】

① 「舞台技術スタッフ業」

「スタッフ」というには表記については、職業的要素を含むものであるが、当該業界の特徴として、個人事業主やフリーランスといった事業形態も存在することを踏まえての名称となっている。なお、「技術」の表記の意味については、次の②を参照いただきたい。

② 「舞台技術サービス業」

「舞台制作」という表記では、一般的に舞台公演の企画・準備、開催といった興行を主催する「コンサートプロモーター」を指すことが多く、現行の日本標準産業分類においては、細分類 8023「劇団」の内容例示にある「演劇興行請負業」や「コンサート・ツアー業（音楽コンサート・ツアーの興行者）」に含まれる。

したがって、舞台装置、大道具、照明機材、音響機材などの設置・操作といった専門技術的なサービスを提供することが主たる業務であることを踏まえて、上述の「舞台制作」と区別する必要性から「技術サービス」としている。

日本標準産業分類（平成 25 年 10 月改定）〈抜粋〉

809 その他の娯楽業

8096 娯楽に附帯するサービス業

プレイガイド、場外馬券・車券の取次販売など他に分類されない娯楽に附帯するサービスを提供する事業所をいう。

○プレイガイド；場外馬券売場；場外車券売場；演劇俳優あっせん業；競輪・競馬等予想業；ゴルフ会員権買取販売業（売買あっせんを含む）

×映画出演者あっせん業 [4169]；映画・演劇用諸道具賃貸業 [7091]；芸能プロダクション [8023]

802 興行場（別掲を除く）、興行団

8023 劇 団

契約により出演又は自ら公演し演劇を提供する事業所、俳優及び演劇興行を請負う事業所をいう。

劇場附属の劇団及び俳優並びに劇場を持つ劇団は細分類 8021 に分類される。

○劇団（独立のもの）；歌劇団（独立のもの）；俳優業（フリーのもの）；演劇興行請負業；芸能プロダクション；コンサート・ツアー業

×劇団（劇場附属のもの） [8021]

＜参考＞ 国際分類における取扱いについて（第7回検討チーム資料の再掲）

ライブエンタテインメントの公演に携わる、舞台進行運営や舞台技術に関する業務について、国際標準産業分類及び欧州共同体産業分類における取扱いを確認したところ、「芸術、娯楽、レクリエーション業」に分類されている。

（1）国際標準産業分類（ISIC）

国際標準産業分類の「大分類 R 芸術、娯楽、レクリエーション業」には、生の実演、博物館敷地の運営、ギャンブル、スポーツ及びレクリエーション活動を含む、一般大衆の多様な文化、娯楽、レクリエーションにおける関心を満たすための幅広い活動が含まれており、舞台進行運営や舞台技術に関する業務についても、「9000 創造的活動、芸術・娯楽活動」に含まれている。

大分類 R 芸術、娯楽、レクリエーション業

9000 創造的活動、芸術・娯楽活動

この細分類は、顧客の文化及び娯楽における関心を満たすための施設の運営及びサービスの提供を含む。これには公衆に見せることを意図した生の演技・演奏、イベントまたは展示の制作、宣伝及びそれらへの参加、芸術作品及び生の演技・演奏の制作に向けた芸術的、創造的または技術的技能の提供が含まれる。この細分類には以下が含まれる。

－劇場公演、コンサート、オペラ、ダンスの制作、及びその他の舞台制作

- ・グループ、サーカスまたは一団、オーケストラやバンドの活動
- ・作家、俳優、監督、音楽家、講演者または演説者、**舞台装置家及び大道具などの個人アーティスト・芸術家の活動**

－コンサートホール、シアターホール、その他のアート施設の運営

－彫刻家、画家、マンガ家、版画家、エッチング作家などの活動

－フィクション系の著述、技術系の著述などを含むあらゆる主題を扱う独立した著述家の活動

－独立したジャーナリストの活動

－絵画などの芸術作品の修復

この細分類には以下も含まれる。

－施設保有の有無を問わず、アート・ライブ・イベントのプロデューサーまたは興行主の活動

この細分類は以下を除く。

－ステンドグラス窓の修復（2310 参照）

－芸術家のオリジナル作品以外の彫像製造（2396 参照）

- オルガンその他の歴史的楽器の修復 (3319 参照)
- 史跡及び歴史的建築物の修復 (4100 参照)
- 映画及びビデオの制作 (5911、5912 参照)
- 映画館の運営 (5914 参照)
- 演劇または芸術用の個人エージェントまたはエージェンシーの活動 (7490 参照)
- 配役斡旋業 (7810 参照)
- チケット代理店業 (7920 参照)
- あらゆる種類の博物館の運営 (9102 参照)
- スポーツ及び娯楽・レクリエーション活動 (中分類 93 参照)
- 家具修復 (博物館タイプの修復を除く。) (9524 参照)

(出所)「国際標準産業分類 (ISIC) 第4次改定版」(平成 21 年 6 月総務省政策統括官 (統計基準担当))

(2) 欧州共同体産業分類 (NACE)

欧州共同体産業分類「90.0 創造的活動、芸術・娯楽活動」の範囲は、国際標準産業分類の「9000 創造的活動、芸術・娯楽活動」と整合的内容となっている。具体的には、舞台進行運営や舞台技術に関する業務については、「90.02 舞台芸術の支援活動」に含まれている。

欧州共同体産業分類 (創造的活動、芸術・娯楽活動)

コード	分類名	範囲
90.0	創造的活動、芸術・娯楽活動	クリエイティブアートと舞台芸術の活動および関連する活動
90.01	舞台芸術 (Performing arts)	ライブの演劇、コンサート、オペラまたはダンス、その他の舞台作品の制作 <ul style="list-style-type: none"> ・ グループの活動：サーカス、企業、オーケストラ、バンドの活動 ・ 個人の芸術家の活動：俳優、ダンサー、ミュージシャン、講師、スピーカー 【適用除外】 個人的な演劇または芸術のエージェントまたはエージェンシーの活動 [74.90]、配役斡旋業 [78.10]
90.02	舞台芸術の支援活動	・ライブの演劇、コンサート、オペラ、ダンス、その他の舞台作品の制作支援活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 監督、プロデューサー、舞台美術家、建築家、大道具 (scene shifters)、照明技術等の活動。 ・ 施設の有無にかかわらず、芸術のプロデューサーまたは事業家のライブイベントの活動 【適用除外】 演劇または芸術用の個人エージェントまたはエージェンシーの活動 [74.90]、配役斡旋業 [78.10]
90.03	芸術的創作	彫刻家、画家、漫画家、彫刻家、エッチャーなどの個々の芸術家の活動。架空の執筆、テクニカルライティングなどを含むすべての主題のための、個々の作家の活動。 -独立したジャーナリストの活動 -絵画などの芸術作品の復元。 【適用除外】 芸術的なオリジナル以外の彫像の製造[23.70],オルガンやその他の歴史的な楽器の修繕[33.19]、映画およびビデオの制作[59.11、59.12]、家具の修復 (博物館タイプの修復を除く) [95.24]
90.04	芸能施設の運営	コンサートホール、劇場ホール、その他の芸術施設の運営 【適用除外】 映画館の運営[59.14]、チケットエージェンシーの活動[79.90]、各種美術館の運営[91.02]

(出所) 「欧州共同体経済活動別統計分類第2版 (NACE Revision 2) 」 (EuroStat) より作成

(<https://ec.europa.eu/eurostat/documents/3859598/5902521/KS-RA-07-015-EN.PDF>)

(3) 北米産業分類システム (NAICS)

北米産業分類システムでは、中分類「711 芸能・観戦スポーツ・関連業」の総論において、同分類を認識するプロセスに言及しており、その中に「イベントの開催、運営」及び「これらのライブイベントの演出に必要な芸術的、創造的、技術的な技能の提供」の項目が記載されている。また、細々分類（6桁分類）では、「711510 独立した芸術家・作家・パフォーマー」において別途、フリーランスの舞台制作技術者の内容例示が記載されている。

北米産業分類（「芸能・観戦スポーツ・関連業」に関する総論）

71 芸術、娯楽及びレクリエーション業

711 芸能・観戦スポーツ・関連業

この中分類の産業は、役者、歌手、ダンサー、楽団、演奏家、スポーツ選手、及び、フリーの芸人を含むその他の芸能人のパフォーマンスなど、実際の演出、主催、宣伝を行う事業所と、芸能人のキャリアを管理する事業所をいう。この分類では、基本的に4つのプロセスを認識している：(1) イベントの演出（上演）、(2) イベントの開催、運営及び／宣伝、(3) 芸能人の管理や代理人活動、及び (4) これらのライブイベントの演出に必要な芸術的、創造的、技術的な技能の提供。

また、この中分類には、芸能会社に関する4つの分類（「7111 芸能集団」、「7112 観戦スポーツ」、「7113 芸能・スポーツ・類似イベントのプロモーター」、「7114 アーティスト・スポーツ選手・芸能人・その他有名人の代理人マネージャー」）が含まれる。各々、上演に関わる芸能人の演技別定義される。

この中分類には、芸能会社と芸能人（アーティスト、フリーを含む）を明確に区分した体系となっている。芸術や娯楽に特有なものではないが、フリーランスという形態はこの「711 芸能・観戦スポーツ・関連業」という中分類では特に重要である。この活動を演出活動と区分するのは意味がある。しかし、集団（カンパニー）とアーティスト、特にポップグループとなると明確に区分しにくい。その組織形態はかなり緩く、カンパニーとフリーランスを区別するのが難しくなる場合がある。そこで、NAICS では、集団とアーティストの双方をカバーできる小分類を設定した。

この中分類では、小分類「7113 芸能・スポーツ・類似イベントのプロモーター」について、二つに細分している。一つは施設を運営する場合、もう一つは運営していない場合である。これは、施設を運営するためのスタッフを管理派遣する興行者とそうでない興行者ではコスト構成に相当な違いがあるためである。施設を保有していない興行者に加えて、この中分類には他に、常設施設を持たずに運営している事業所が入る。例えば、芸能プロダクション、楽団や演奏家、観戦スポーツ、フリーランスのアーティスト、作家、パフォーマーなどである。

ナイトクラブはこの分類には含まれない。中には定期的にライブステージを提供してるところがあり、小分類「7113 芸能・スポーツ・類似イベントのプロモーター」に分類できる場合もあるが、こうした事業所のほとんどが催しを行っていない時には、飲食店と

して活動しており、収益の大半は飲食料品の提供によるものなので、中分類「722 飲食店」に分類される。

北米産業分類（小分類「711 芸能・観戦スポーツ・観点業」のうち関連のある区分）

分類番号・分類項名		定義・具体例
711110	劇団・ディナーシアター	ミュージカル、オペラ、演劇、コメディ、即興、パントマイム、人形劇といった演劇の上演を主な目的とする企業、グループ、劇場と、演劇の上演と施設内での飲食の提供を目的とするディナーシアターと呼ばれる施設によって構成される。演劇グループや劇団は、ショーを上演するための劇場やその他の施設を自ら運営することも、しないこともできる。 [具体例] 喜劇団、オペラ会社、演劇の生演奏（ダンスを除く）、ミュージカル劇団
711120	ダンスカンパニー	あらゆる種類の劇場用ダンス（バレエ、コンテンポラリーダンス、フォークダンスなど）のライブ上演を主な目的とする企業、グループ、劇場で構成される。 ダンスカンパニーやグループは、ショーを上演するための劇場やその他の施設を独自に運営する場合もあれば、そうでない場合もある。
711130	楽団・音楽アーティスト	(1)ライブの音楽エンターテインメント（演劇用のミュージカルやオペラを除く）の制作を主な目的とするグループ、(2)ライブの音楽エンターテインメントを主な目的とする独立（フリーランス）アーティストで構成されている。 音楽グループやアーティストは、ライブの観客の前で演奏することもあれば、スタジオで演奏することもあり、ショーを上演するための施設を独自に運営することもあれば、そうでないこともある。 [具体例] バンド、音楽団体（演劇的音楽団体を除く）、鼓笛隊（ドリルチームなど） 管弦楽団、独立した音楽家または声楽家
711190	その他の芸能集団	主にライブの劇場公演を制作する企業やグループで、劇団、ダンスカンパニー、音楽グループ・アーティスト以外のものをいう。 [具体例] カーニバルの巡回ショー、アイススケート会社、サーカス、マジックショー
711310	舞台芸術・スポーツ・それに類するイベントプロモーター（施設保有者）	主に (1) ライブパフォーマンス芸術作品、スポーツイベント、および自身が管理・運営する施設で行われる州フェア、郡フェア、農業フェア、コンサート、フェスティバルなどの類似イベントの主催、興行、管理、及び／又は、(2) 他の興行者に貸すためにアリーナ、スタジアム、劇場その他の関連施設へのスタッフの管理派遣、を行う事業所で構成されている。

711320	舞台芸術・スポーツ・それに類するイベントの運営業	主にライブの舞台芸術作品、スポーツイベント、および州フェア、郡フェア、農業フェア、コンサート、フェスティバルなど、他者によって管理・運営される施設での類似イベントの企画、宣伝、管理に従事するプロモーターで構成されている。演劇（映画を除く）のブッキングエージェンシーもこの業界に含まれる。
711510	独立系芸術家・作家・パフォーマー	<p>主として芸術作品に出演すること、芸術・文化作品または制作物を創作すること、またはこれらの制作物に必要な技術的専門知識を提供することに従事する独立（すなわちフリーランス）した個人で構成される。</p> <p>また、スポーツ選手やその他の有名人が、専ら商品の推薦や、報酬を得るためのスピーチや公の場での出演に従事する場合もこの業界に含まれる。</p> <p>[具体例]</p> <p>個人事務所の俳優または女優、独立系プロデューサー、独立系美術品修復家、独立系録音技術者、独立系アーティスト（音楽、商業、医療を除く）、独立系講演家、独立系漫画家、独立系演劇の衣装デザイナー</p> <p>個人ダンサー、独立系演劇用照明技師</p> <p>独立系ジャーナリスト、独立系テクニカルライター</p>

(出所) 「北米産業分類システム 2017 年版」

(https://www.census.gov/naics/reference_files_tools/2022_NAICS_Manual.pdf)に基づき作成。